

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

— 特別展覧会「禅 — 心をかたちに —」—

ほとけ

仏はここに!!



図1 《十八羅漢像のうち「羅怛羅尊者」》
 范道生作 萬福寺蔵

★この人は誰？

図1は羅漢の一人で羅怛羅という名前です。羅漢というのは釈迦の弟子で、尊敬を受けるのにふさわしい聖者のことです。羅怛羅は釈迦が王子だったころの子どもです。釈迦が家を出て修行し、悟りを開いて人々を教え導くようになってから、その弟子となり、十大弟子、十六羅漢の一人に数えられるようになりました。

★何をしているの？

上半身は裸、両手で自分の胸を開いています。胸の中には、仏の頭部があります。人間には誰にでも仏になれる可能性がある、と仏教では教えます。いろいろな欲望に振りまわされてそれがわからないでいるのが普通です。それを自覚し、迷いを断ち切れば仏になれるのです。羅怛羅は、自分の中に仏はいますよ、と示しているのです。



「羅怛羅尊者」(部分)



「羅怛羅尊者」(部分)

★とても変わった顔をしている

頭の上がり盛っています。これは仏と同じで、脳が発達してふくらんだのです。顔は個性的ですね。団子鼻で眉、ひげは巻き毛。後頭部は髪の毛があってこれも巻き毛です。開いた口から見えるのは上の前歯2本だけ。目は吊り上がって一重の上まぶたがおおいかぶさる形です。耳には大きなイヤリングをしています。日本人には見えませんね。羅怛羅はインド人ですが、インドに似た人がいるでしょうか？

★いつ、だれが造ったの？

江戸時代、1664年に范道生という中国人の仏師が造りました。范道生は中国から長崎に来ていたのを隠元という同じく中国から来たお坊さんに呼ばれて日本でたくさん

みました。抹茶まっちゃが主流だった茶の湯にも煎茶せんちゃの文化くわを加え普及ふきうしたのは黄檗僧おうぼくそうです。

ひとつの作品しゅうへんの周辺に、さまざまな世界が広がっていることがわかりいただけましたか？

(京都国立博物館 浅見龍介)